

# 介護と人生

仕事・子育てと  
どう両立させる？

③

に誰かの介護を受けることは、本人にとってプライドを傷つけるつらいことでもあるからです。

できる事まで介護してしまおうような状態が続けば、本人は諦めて何もかも頼るようになり、ますますできる事が減ってしまうでしょう。もちろん要介護状態になれば、自立すると言っても元気がだったころと同じように暮らすことはできませんが、まず家族がこのことを受け入れて、それでもできる限り自立してもらおうと考えることが大切です。

歩けなくなった、でも車いすを自分で動かすことはできる、洗濯した服を畳めなくなったけれどタオルやハンカチは畳める、料理は作れないけれど味見はできるなど、できない事とできる事を見極めて、少しでもできる事を続けましょう。

元の暮らしに戻すためではなく、長い介護生活で失われるものを、少しでも先に延ばすために。

## 要介護者の自立

前回、介護する家族が介護者として自覚することが大切だと書きましたが、今回は要介護者について考えましょう。介護保険制度の目的は『要介護者の自立』ですが、なぜ『自立』を目的にしているのでしょうか？

在宅介護の場合、家族が必要以上に手助けしていると感じることがあります。

例えば、足が悪くなると車いすになると、ほとんどの方は、自分で動かすことができずと家族が押しています。介護施設などで不自由な手を使って食事したり、足で漕いで移動していたりすると「職員はなぜ手伝わないのだ」と怒る方もおられます。

それは家族に対するいたわりの気持ちから来るのですが、もう一つの理由はその方が手間がかからないから。食事も食べさせた方が早いですし、車いすも押した方が早く移動できます。

介護施設などでは、残された機能を維持するために、利用者はできる限り自分でできる事は自分でできるようにします。それは介護サービスの目的だからですが、要介護状態になって常

## できる事を見極め、続ける



失われるものを  
少しでも先に延ばす